

# 根室市議会 2019年度 決算委員会 行いました



9月28日～30日、根室市議会は2019年度の各事業・特別会計決算審査特別委員会を開催しました。日本共産党から橋本竜一が出席し、水道や病院、国民健康保険など昨年度の決算状況を振り返り、今後に向けた行政課題を論議しました。

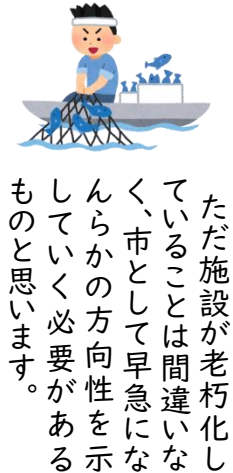
## 根室港の新たな水産上屋の建設費が約15億円と試算。

重要港湾・根室港は昨年度、サンマの記録的な不漁のため、収入の中心である漁獲物陸揚使用料が大幅に減少しました。一方で輸入ウニが高値好調で推移し、港湾収益を支えた状況でした。収益は減少しても、大きな建設投資が無いため、会計としては毎年度の黒字決算が続いています。

漁業水産が低迷する中、根室港には漁業生産を下支えする機能強化が求められています。根室市は昨年度、根室港区側の老朽化した水産上屋を建て替える基本設計を行いました。ホタテやベニサケ養殖の水揚げ等も見据え、衛生管理型の施設建設を構想しています。

しかし、近年の建設コストの高騰により、過去には8億円程度と想定していた建設費が、計画では約15億円にまで膨らんだことが示されました。黒字とは言え、これほど大きな建設投資を行うことはリスクが高すぎます。

根室市は水産上屋の建設について一度保留して、全体的な計画のあり方について関係団体等と相談し直すことや、また建設費について既存の制度よりも有利な国の補助を求めていく等、財源対策についても様々なに検討していく必要があることを説明していました。



ただ施設が老朽化していることは間違いないと、市として早急になんらかの方向性を示していく必要があるものと思います。

## 水道料金のさらなる値上げをさせないためには、一刻も早く国の補助制度の拡充を

昨年度、水道料金を値上げしました。全道的にみても高い水道料金は市民生活や低迷する地域経済へ大きな影響を与えます。その大きな要因の一つは、老朽化する水道管の更新費用です。根室市は毎年4億円以上の工事費をかける予定ですが、それでも耐用年数を越える水道管の割合は横ばい状態が続く見通しです。

根室市は料金の値上げ幅を抑えるために、毎年約4500万円程の財源を支出しています。しかし根本的には、人口が減少する中で、水道料金の収入だけで事業を担う仕組みが限界にきているのだと思います。

水道の更新工事に対して国の補助制度を求める動きが全国的に起っています。未だ実現していません。無責任な国の姿勢をなんとかしても改めさせる必要があります。低所得者に対する水道減免制度の利用促進と制度拡充を

全国的に珍しいのですが、根室市は低所得者に対する独自の水道料金の減免制度を持っています。今回の値上げに併せて対象範囲を生活保護基準額の1.1倍に拡大しました(水道料金の15%を減額)。

しかし昨年度は残念ながら利用が一件に留まっています。制度PRの問題もありますが、今後に向けては、やはり減免になる対象世帯を拡大していくことが大きな課題であると思います。

## 国保は2年連続黒字だが、今後の財政見通しは厳しい？

国民健康保険は2018年度に都道府県で一体の財政運営を行うための制度改正が行われました。その影響で、根室市では2018年度・19年度と連続して黒字決算となりました。基金は約1億9100万円も積んでいます。

実は2024年度に北海道全体で保険料(税)に関する大きな見直しが行われることになっていきます。その場合、根室市国保の支出が増えることが予測される。その影響で、懸念されます。その場合、市は基金を活用して、保険料の引上げを抑制したい考えを示しています。

ただ、今はサンマ等の不漁や新型コロナウイルスの影響で収入が減少し、納付が困難な状況の方も多くいます。高すぎる国保税に対して、私たちとしては、収入の無い子どもに賦課される均等割分の減免など、基金を活用した対策を、今後も強く求めて行きたいと思っています。

## 特定健診の受診率は低迷

根室市の特定健診の受診率は昨年度は17%と低迷を続けています。今年はコロナの影響でさらなる受診率の低下が心配されます。特に病院にかかって無い方で、健診を受けない方に対して、どうしたら受診しやすい環境を作れるか、専門家の協力を得ながらアンケート調査などを行い、さらなる対策を進めよう求めました。

## 後期高齢者の負担増をストップさせよう

後期高齢者医療は、2年に一度保険料が見直され、高齢化が進むに従い保険料は、ほぼ自動的に高くなっていく仕組みです。国は制度創設当時、国民の批判をかわすために、保険料軽減の特例を設けました。しかし2017年度から段階的にその保険料の軽減措置を解除し、2021年度には全ての特例軽減が無くなります。そればかりか、国は今は病院代窓口負担を今の1割から2割に引き上げることも検討しています。受診抑制による重症化や高齢者世帯の家計破綻につながり兼ねない国の政策に対しては、断固として反対の声を大きく上げていく必要があります。

## 歯と口腔の健康を守ろう

根室市では、2019年度から後期高齢者が利用できる歯科検診を開始しました。しかし昨年度の利用は2件に留まっています。

市内の後期高齢者の歯科受診率は道内でも低い水準です。歯と口腔の健康を保つことは介護予防や認知症に大切なことは知られていますが、あまり利用につなげていません。

この歯科検診の制度も含め、様々な介護予防などの取り組みを通じて、市民の意識や高齢者のケア向上につなげていくことが重要です。

